



北の大地で絆の踊り

▲札幌市内で踊る香美市の踊り子

第28回YOSAKOIソーラン祭りが、6月5日から5日間、札幌市で開催され、大勢の観客でにぎわいました。

香美市からは踊り子隊と訪問団総勢28人が参加しました。今年も姉妹都市積丹町とヤーレンソーラン積丹町&香美市※を結成し、8・9日の両日に大通公園など札幌市内の会場で練り広げられた本祭に、25年連続での出場を果たしました。

高知県のよさこい鳴子踊りと積丹町発祥の民謡ソーラン節を融合させた楽曲に合わせて踊りを披露し、また、昨年からふるさと納税の基金で購入したフラフ2本を演舞に使用し、よさこい本家をアピールしました。

※香美市22人・積丹町39人の総勢61人の踊り子が参加。



工科大留学生清掃活動

6月2日、香美市一斉清掃の日に工科大楠目寮から物部川河川敷を清掃しました。地域間交流を図るために、今年は、留学生8名、大学生6名、合計14名が参加しました。

毎年6月の第1週の日曜日に住民が溝掃除など一斉清掃を行っている姿を見て、一緒に手伝ったりしていました。そこで工科大学寮長が、それなら日本の文化を知ってもらいたい、地域と交流させてあげたいと思い始めたのがキッカケで、今年で12年目となりました。

香美市の味覚 北海道へ

香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会が主体となり、毎年行われている積丹町への訪問・交流事業(6月29日~7月1日)で、15人の訪問団が積丹町を訪れました。

札幌市内からも多くの観光客が訪れる味覚祭りには、今年で23回目の参加となりました。とれたてのウニ・エビなどが入った直径1.5mの大鍋で作る浜鍋など、積丹町ならではの味覚を存分に楽しめるお祭りです。昨年から引き続き、かつおのわら焼きタタキの実演を行いました。盛大に炎を上げる豪快な調理に、見物客から拍手がわき、かつおのタタキ販売ブースは行列ができる盛況ぶりでした。



障害者スポーツ大会優勝

6月2日、第21回高知県障害者スポーツ大会が高知県春野総合運動公園で開催され、香美市選手団が優勝しました。卓球(個人)優勝の上田選手は10月に開催される全国障害者スポーツ大会茨城大会へも出場することとなりました。

- ◆ポッチャ(チームの部)優勝
香美市B(川辺勝一選手、岩崎正敏選手、長野正行選手)
- ◆卓球(個人)優勝 上田大雅選手



やまびこ芸能祭

6月9日、第21回やまびこ芸能祭が奥物部ふれあいプラザで開催されました。

調子の良い民踊、優雅な舞踊、きらびやかな衣装をまとった歌手の歌などが発表されました。

当日は大柵保育園児の元気なダンスをはじめ、二人羽織、演者と大勢の観客が一体となって行われたレクリエーション、はつらつ体操で会場は笑いや歓声で包まれました。



時の記念日

6月10日、土佐山田町中野の時光石宮とっこいしぐうで恒例の神事が行われました。

14時にほら貝の音とともに始まり、山田堰工事の際、日時計とほら貝を使って時刻を知らせたという野中兼山をしのびました。

時光石宮には野中兼山の使っていた日時計の台座となった石が祭られており、地域の住民は「野中先生の偉業を後世へ語りついで行きたい」と話してくれました。



繁藤慰霊祭

7月5日、第48回繁藤山崩れ殉職・殉難者追悼慰霊祭が、哀悼の広場(土佐山田町角茂谷)で行われました。

慰霊祭に先立ち、香長小学校の児童と鏡野中学校の生徒たちが折った千羽鶴が供えられ、慰霊祭には遺族や関係者ら約100人が参列し、犠牲者のめい福を祈りました。

繁藤災害は昭和47年7月5日、豪雨による追廻山の崩壊で生き埋めとなった消防団員の救助活動中に、大きな山崩れが発生した大災害です。新改川で流されて亡くなった1名と合わせ61名の方が犠牲となりました。



ビジュアルプログラミング教室を開催

6月の毎週土曜日、5回にわたり、香美市こども教室パソコン教室が中央公民館で開催されました。

プログラミング教室を企画したところ、高知工科大学のサークル『電腦かかし』がテキストの構成や作成、教室の内容について熱心に取り組んでくれました。定員を超える申し込みの中、大半が初めて取り組む子どもたちでしたが、個々に動作の確認などをし、わからないところは隣のお友達に教えてもらったり、高知工科大学生に質問したりしていました。